

平成 27 年度 第 2 回河内長野市文化振興計画推進委員会

【日時】平成 27 年 6 月 24 日（金）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

【場所】市役所 6 階 602 会議室

【出席者】

<河内長野市文化振興計画推進委員会委員>

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・中道 厚子・長山 公一・中脇 健児・
寶楽 陸寛・水落 学

<事務局>

（河内長野市教育委員会事務局文化・スポーツ振興課）

森井・上田・東畑・西尾

（ランドブレイン株式会社）

小笹、三浦

【配布資料】

- ・平成 27 年度 第 2 回河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 課題と方針（案）
- ・資料 2 基本理念（案）
- ・資料 3 推進体制のイメージ（案）
- ・資料 4 平成 27 年度 第 1 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

以上

(委員長挨拶)

末延委員長

みなさんこんにちは。今日は文化振興計画における、基本理念と推進体制のイメージについてみなさんにご意見を頂きたい。まず、資料1の説明から始める。

(課題と方針の修正について)

ランドブレイン株式会社三浦

第1回会議を受け、委員の皆様のご意見を反映し、課題と方針を修正しました。ご確認をお願いします。

ランドブレイン株式会社小笹

補足させていただきます。参考資料にあるとおり、方針案に関して関係団体へヒアリングを行いました。みなさま方針について一定理解を得ているという状況です。

末延委員長

ラブリーホール、文化連盟、るーぷらざ、観光協会にヒアリングを行った。方針において循環の核になるのはやはりラブリーホールである。参考資料のラブリーホールの箇所を読んでいただいてどうだろうか。これから河内長野ではラブリーホールは柱となって文化活動を進めていくことになる。

中脇委員

必要と考える取り組みの中にアウトリーチ事業としてアーティスト支援を行いたいとあるが、もし若手のチャンスとしてのアウトリーチ事業という意味であれば、それはすでに行われているので、これから必要と考える取り組みの中に入っているのは意外であった。

末延委員長

アウトリーチを通じた一つの支援という段階を乗り越えて我々は議論しなければならぬ。次に文化連盟についてはどうか、見て頂きたい。

浅尾委員

スポーツも文化の一つではないかという意見があるが、その通りだと思う。以前、市民アンケートの中に河内長野シティマラソンの項目があったが、最終的に削除した記憶があるが、なぜか。

東畑主査

前計画から今までに文化事業数が増えているという経過を踏まえ、項目数を理由に省かせていただきました。もちろん文化の中にスポーツも含まれますが、課題と方針の中にある他分野との連携でスポーツや教育、自然と連携していくという形で表記したいと思っています。

浅尾委員

次期計画では、スポーツ振興には踏み込まないということか。

東畑主査

スポーツについては別途計画も存在していますので、そこの連携という意味では関わりはあります。

来村委員

スポーツ分野にも審議会あるのか。

東畑主査

本委員会のような計画を策定する審議会はありますが、計画に基づいて事業展開しています。

中道委員

ラブリーホールの教室型事業のところでは、知るから学ぶ、体験するで止まってしまっている。文化連盟も同様である。次期計画の方針にあるが、活動者が楽しいだけでなく、文化を広める担い手を育てるという視点が入らないと更に発展することはないと思う。例えば、担い手育成を推進している団体には、補助するなどの仕組みを作らないと定着しない。

末延委員長

体験だけでなく、次世代を育てる具体的な方針を追加すべきということだろう。ラブリーホールや文化連盟、るーぷらぎ、観光協会においてもその認識を持ってもらわなければならない。これまでの議論でも、次世代を育てることは、計画における根幹である。

宝楽委員

中道委員の指摘している施策は方針 2-2 にあたると思う。指摘している内容がこの表現では伝わりにくいということか。

中道委員

文化を実施する側が意識するように書かないと実施されないと思う。さらに展開させることを促す施策が必要である。

中脇委員

ラブリーホールの教室型事業では確かに学ぶだけだが、学ぶからワンステップ先の市民を主体とした文化コーディネーター養成講座の必要性は書かれている。

宝楽委員

方針 2-2 では次世代の育成の必要性が十分に伝わっていない。育成まで含めた書き方を意識するべき。

末延委員長

現段階では人材育成が文言だけで終わってしまう危惧がある。人材をいかに育てるのか、

いかに取り組むのかというところをもう少し考えていかなければならないのだろう。続いて、基本理念について議論していく。

(基本理念について)

ランドブレイン株式会社三浦

これまでの議論を受けて理念案を提案します。

東畑主査

計画策定の10年後に河内長野市で文化がどのような状態になっていけばいいかという目標を、市民に分かりやすい表現で考えていただきたいと思います。今までの議論を受け、たたき案を提示させていただきましたので、これについてご意見を頂き理念を固めていきたいと思います。

中脇委員

前は「わたしたちが創る〈文化のビオトープ〉 協働でつくる 誇れる河内長野」であった。

末延委員長

10年後を意識した、分かりやすい理念案を考えていきたい。

来村委員

「市民が文化を身近に感じ、心豊かに暮らすまち」という表現がいいのではないか。

中道委員

「人と地域が循環する」という表現をもう少しいい表現にできないか。人と地域が同じレベルになってしまっている。

末延委員長

循環では交流するという意味が伝わらない。

来村委員

循環という表現を重んじるのであれば、「循環型文化事業」などはどうか。

浅尾委員

「人と地域が交流する循環型文化事業」という言い方もできる。

中脇委員

上段がかなり広くとらえた表現になっているが、下段が硬い表現なのでバランスとしては大丈夫だと思う。

ランドブレイン株式会社小笹

循環という表現をやわらかくし、「巡る」という表現ではどうでしょうか。

中脇委員

趣旨的には大きく外れていないと思う。また、「公的文化施設も充実しています」という

文言が気になる。例えば伊丹市では文化施設の大規模修繕が控えているという現状である。今後、河内長野でも施設について充実すると言及をしてもいいのだろうか。10年後もそうだろうか。

末延委員長

「河内長野市は地域資源が豊富であり、公的施設も充実している」という箇所は現状の認識という意味では間違っていない。ただし、施設の老朽化が心配である。

東畑主査

現状でも施設の維持管理ということは課題になっています。10年後は施設が充実しているのかというところは不安な点ではあります。

荒川委員

理念でありネガティブなことは入れなくてもいいのではないか。

来村委員

「自然環境や歴史、伝統、人といった地域資源」とあるが、人は地域資源だろうか。「自然環境と地域資源」でいいのではないか。

中脇委員

地域資源に人を含めるのは違和感を持つ人もいる。ただ、地域資源とは何かというのは入れてもいいのではないか。

来村委員

「文化財」という言葉がないが、河内長野は文化財が多いので入れてほしい。「人」の代わりに「文化財」ではどうか。

荒川委員

解説文の文頭に「自然環境」があると、文化の計画であるのに別のものをイメージしてしまう。また、自然環境が地域資源に含まれないなら、「自然環境や」の後に句読点があるのでないか。

宝楽委員

人口減少により税収が減り、財政が緊縮するということは書かなくてもいいのか。課題の一つだと思う。

中脇委員

人口減少の中に含まれるのかもしれないが、少子化という言葉も必要ではないか。教育については多くの時間を割いてきた。

来村委員

「少子高齢化」という言葉はどうか。

水落委員

少子高齢化の「進展」という表現はおかしい。

来村委員

「進行」ではないか。

来村委員

「人口減少や少子高齢化などの地域課題」という表現でいいのではないか。また、「多く山積する」という表現があるが、「山積」のみで大丈夫。前半部分では「地域課題」という表現をしているが、後半には「市民ニーズ」という新たな要素が入っている。それでは対応が悪いので、「地域課題」だけにするか、その説明を一文入れる必要がある。「今後は文化事業においても河内長野市の地域課題に即した事業の展開が求められます」でいいのではないか。

宝楽委員

市民ニーズが多様化する一方で財政も厳しく、高齢化が進みという言い方をよく目にする。

来村委員

「市民ニーズ」を入れるなら、例えば、「地域課題が山積し、文化を求める市民の声が高まっています」という表現でいいのではないか。

中脇委員

「文化に期待する役割が多様化しています」の表現にしたほうがいい。

荒川委員

「文化に期待する」はおかしくないか。「文化行政に期待する市民の声が多様化しています」ではないだろうか。

来村委員

「河内長野市」という文言は入れなくていいのではないか。

来村委員

「今後は、地域課題や市民ニーズに即した文化事業の展開が求められます」と書くとききりする。

中脇委員

文化行政、文化施設といった主語がないので、ふわっとした感じがする。

来村委員

3段落目は理念のことについて補足した文章を入れると収まりがいい。先ほど出た「巡り会う」という言葉はいいと思う。「人と人が巡り会う文化事業モデルの構築」などはどうか。やさしいイメージのワードである。もしくは「河内長野型事業モデル」はどうか。

中道委員

巡り会うという言葉に循環を感じる。

末延委員長

構築という言葉が少し固い。何かいい言葉はないか。

宝楽委員

「創造します」はどうか。

来村委員

「創出」という言い方はどうか。

荒川委員

「巡り会う」というのは、大和言葉だったので最後まで同様にすべきではないか。

中脇委員

「河内長野」という言葉は必要ないのではないか。閉鎖的な感じがする。

荒川委員

河内長野型モデルとしては必要ではないか。頭の「河内長野の人と」の河内長野を消し、後半を来村委員提案の「河内長野型事業モデル」とするのはどうか。

来村委員

河内長野の文化事業のあり方がモデルになるようにしたい。全国に発信できるようなブランドにしていく。

中脇委員

そうすると、方針4の情報発信もしやすくなる。

宝楽委員

確認します。「市民が文化を身近に感じ、心豊かに暮らすまち ～ひとと人とがめぐり会う、河内長野型文化事業の創出～」になりました。

末延委員長

事務局も意見をどうぞ。

東畑主査

「河内長野型」の表現を、もう少し柔らかい言葉にしてはいかがでしょうか。「らしさ」や「特色ある」などはどうでしょうか。

来村委員

10年後のビジョンを明確に示すということが重要である。1つのモデルとなることを目指さないといけない。

末延委員長

次に、文化事業の推進体制のイメージについて議論したい。

(推進体制のイメージについて解説)

中道委員

文化が高まることで学びに繋がるということが重要であるが、学ぶというところが図の中で見えない。公民館やその他の文化を熱くしていく施設が見えない。生涯学習などの分野や、社会教育施設である。

中脇委員

文化・スポーツ振興課に社会学習などは入るのか。

東畑主査

市の組織でいうと、公民館や社会教育施設は別の組織となります。しかし、文化施策という公民館の活動も含まれます。現状の組織体制では公民館を所管していないだけです。

中脇委員

市民団体のところに、社会教育施設を位置づけるのは可能か。

末延委員長

どこかに文言として位置付けておく方がいい。10年後にはそうなっているかもしれない。

上田主幹

官と民でいうと、ラブリーホールつまり文化振興財団が指定管理を行い、キックスが生涯学習の場として存在します。社会教育施設としてはキックスと公民館は同じです。文化事業と他分野事業というくくりでいうと、施設と分野で分けるのが難しくなります。

中脇委員

他分野事業で観光、福祉などが入っているので、そこに学校や関連公的施設が存在するのには違和感が無い。

上田主幹

図の左が官、中央が指定管理者などの半官、右が民間と言えます。だが、文化芸術にも、他分野にも官と民が存在します。

宝楽委員

これは推進体制図であるため、役割分担を明確にしておきたいが、ジャンルが混ざっているので議論が進めにくいのではないか。

中道委員

河内長野市から1本矢印が出ているだけでは、市は他に任せて関与しないという風に誤解を受ける。お金の流れだけでなく、役割分担を明確にすべき。

中脇委員

これは予算としての役割分担ではないのか。

来村委員

現状図では、文化連盟が中心のように見える。市民を中央にしたトライアングルの形に

した方がいい。

中脇委員

文化芸術事業ではなく、文化芸術行政になるのではないのか。

来村委員

推進体制図ということだが何のための図なのかが分からない。目的が明確になっていない。

中脇委員

誰が主体として担うかを分かりやすくするための図ではないか。

宝楽委員

この審議会の今後の位置づけも必要ではないか。

来村委員

絵はごまかしがきかないので、組織体制は文章にしてはどうか。

中脇委員

河内長野市の文化事業の多くはラブリーホールが担っていると思う。ラブリーホールが中心と分かるように位置づけたほうがいいと思う。

来村委員

どの部署、どの分野とも関わるという意味でトライアングルの中心に市を据えてみてはどうか。

末延委員長

市を中心とし、周りの各団体と市をつなぎテトラポット型にするのはどうか。

荒川委員

文化芸術事業と他の分野が連携することの方が意味がある。

来村委員

図の書き方を線や破線を使うよりも、色分けするなどの工夫をする必要がある。

宝楽委員

市のどの部署が担うのか、また、この審議会の位置づけも書いてほしい。

中脇委員

一般的には中央にあるものが中核に見えてしまう。そこに市が入るのか、ラブリーホールが入るのか。私はラブリーホールだと思う。

来村委員

立体的なものを平面では説明することは難しい。つながり等も分からない。文章で書いた方が分かりやすいのではないか。役割分担は市の方針ですでに決めているのではないのか。これに関しては委員はあまり関知するところではなく、むしろ河内長野型のモデルの

図を作っていく方が大切である。

末延委員長

まずは推進体制の文言をつくっていただきたい。

来村委員

先に河内長野型文化事業モデルの分かりやすい図が必要である。

宝楽委員

現状では社会教育施設が入っていない。また学びをどう取り入れるか。

中脇委員

まちが文化を中心にどうつながっているかが情景として見えるようなイラストが必要ということだろうか。

末延委員長

色々なご意見ありがとうございました。次回候補日は7月17日もしくは24日です。次回は全体の図や体制表、そして「学び」を明確にし方針、施策のなかにどう落とし込むのかを議論していく。以上で終了します。

以上